

# 令和7年度 木津川市地域で支える学校教育推進事業 総括 (木津川市地域学校協働本部)

## 環境整備支援

### <評価>

- ・ 環境整備ボランティアの活動により、学校内外が常に整備されている。花壇の手入れや作物を育てる授業を通して、地域の子どもと大人、ボランティア同士の交流の場となっている。
- ・ 学校の手が行き届かない場所の整備や休校中の水やり等が実施されており、助けられている。



<相楽小学校 環境整備>



<木津南中学校 休校中の水やり>



<南加茂台小学校 合同環境整備>



<相楽小学校 環境整備>



<棚倉小学校 環境整備>



<加茂小学校 環境整備>

## 図書室支援

### <評価>

- ・ 図書室の支援活動は9校から11校に増加し、学校司書が不在の日の休み時間や放課後の開室・貸出の支援を、ボランティアが教員に代わって行っている。これにより、児童生徒がいつでも図書室を利用できる環境が整い、読書の推進につながっている。
- ・ コーディネーターがボランティアのスケジュール調整を行うことで、活動が円滑に進んでいる。また、ボランティアは児童生徒たちとの関わりを楽しみながら協力している。



<州見台小学校 図書室支援>



<木津小学校 図書室支援>



<加茂小学校 図書室支援>

## 登校安全指導

### <評価>

- ・ ボランティアは朝の忙しい時間帯や、寒い日・暑い日にもかかわらず、地域の児童の安全を守るために活動している。
- ・ 交通量の多い交差点で登下校時の見守りを行い、児童生徒が安心して下校できた。



<木津第二中学校 下校安全指導>



<棚倉小学校登校 安全指導>



<州見台小学校登校 安全指導>

## 学習支援・体験活動・部活動指導

### <評価>

- ・ 「昔遊び」の授業支援では、地域コーディネーターが企画からボランティアの招集、高齢者への配慮まで行い、子どもたちが分かりやすく、楽しめるよう工夫して対応した。
- ・ 「交通安全教室」「自転車安全走行教室」では、警察署の指導のもと、交通安全協会、保護者、ボランティア、コーディネーターが連携し、子どもたちへの指導補助を行った。
- ・ 家庭科のミシンを使った授業の補助では、学校、コーディネーター、ボランティアが事前に授業の進め方について打合せを行い、ボランティアは安心して支援に入ることができた。また、自身の知識を生かし、子どもたちとの交流を楽しみながら補助にあたった。



<加茂小学校 家庭科ミシン支援>



<加茂小学校 野菜を育てる授業>



<木津第二中 家庭科支援>



<州見小学校 昔遊びの授業>



<梅美台小学校 伝承クラブ>



<木津川台小学校 昔遊びの授業>

## その他

- ・ 地域コーディネーターの配置人数は地域の実情に応じて異なるが、各校からの要請は事業の浸透とともに年々増加しており、コーディネーターの役割はますます重要になっている。
- ・ 各学校では、学校支援ボランティア等の地域の協力者に対し、感謝の集いの開催や、子どもたちからのお礼の手紙、手作りの感謝状の贈呈など、感謝を伝える取組がされており、ボランティアの励みになっている。
- ・ 地域コーディネーターは、資質向上を目的とした京都府主催の研修会に積極的に参加し、地域と学校の連携・協働に対する意識の高まりにつながっている。また、市の地域コーディネーター研修・交流会を実施し、7名が参加した。各自の活動について情報交換を行った。



＜上狛小学校 特別支援＞



＜州見台小学校 収穫体験＞



＜南加茂台小学校 収穫体験＞

### まとめ

- ・ 地域学校協働本部事業は、地域と学校が連携・協働し、地域全体で子どもたちの成長を見守る体制づくりを目指し、2012年度に立上げられました。これまで、学校・地域の理解・協力、ならびに多くのボランティアの支援により、各地域での認知が進んできました。
- ・ 地域コーディネーターは、自身の経験を活かして学校とボランティアの調整役を担うだけでなく、自ら中心となって支援活動を実施されています。また、ボランティアが活動に気持ちよく参加できるよう、ボランティア同士や学校との良好な関係作りを常に意識し、連絡や感謝の言葉がけなどに細やかに配慮しながら、活動が円滑に進むよう尽力されています。
- ・ 令和8年度も引き続き地域コーディネーターを中心に地域全体への協力を呼びかけ、学校支援活動の充実を図ります。さらに、市内全校へのコミュニティ・スクールの導入が推進されており、地域の理解と協力がこれまで以上に求められています。

※上記で写真が掲載されていない学校でも、支援活動を実施しています。

### ●●● 令和7年度に重点的に取り組んだ内容 ●●●

課 題	ボランティア新規登録者はあるものの、高齢化等による辞退者も一定数あり、全体の登録者数が増えず、実働者が固定化しがちである。		
これまでの取組状況	折込チラシの全戸配布等で多くの応募があるが、年度末に次年度への更新確認を行うと、登録者とはほぼ同数の辞退者があり、全体数は変わらず。		
課題の解決のために令和7年度に実施した具体的な取組	チラシ全戸配布による募集と並行して、市ホームページ、市公式LINE、電子申請システムを利用した登録案内で事業を周知した。また、コーディネーターが学校の支援要請に応じた地域特化型のチラシを作成して地域回覧ならびに配布を行い、ボランティア登録者の増加を目指した。企業・団体版のボランティア登録の募集も開始した。		
達成する目標	要請項目ごと、教室ごと*のボランティア協力者を増やし、体制を充実させることを目指す。 ※放課後子ども教室		
達成度を測る指標	「ボランティア登録者数」	年度当初	350人
	目標値 370人	本年度実績値	387人
評価・分析	各地域で多くの新規ボランティア登録があった。図書支援に特化したチラシを回覧・配布した地域では、普段学校と関わる機会が少なくなった地域の方々が関心を持ち、多くの方に協力いただけるようになった。また、登録後の説明、学校との顔合わせ、日程連絡等に加え、ボランティアが学校のルールを守り、互いに気持ちよく参加できるようにするためには、活動の立ち会いや声かけなど、各ボランティアへの丁寧な対応が欠かせない。そのため、コーディネーターの増員による体制の充実が必要となっている。		